



庄原赤十字病院
眼科部長
向井 聖

40歳以上の20人に1人は緑内障

緑内障とは

従来の緑内障の定義は眼圧上昇の結果、視野が狭くなる疾患といわれていましたが、日本人の緑内障は眼圧が正常な方が多い（正常眼圧緑内障）ということが分かり、最近では眼圧上昇に関係なく視野狭窄が進行していく疾患と定義されています。ただし、脳卒中・蓄膿症などによる視力視野障害は除外されます。

緑内障の分類

緑内障は頻度の多いものから正常眼圧緑内障、続発緑内障、原発開放隅角緑内障、原発閉塞隅角緑内障、

先天緑内障に分けられます。

緑内障の原因は

現在のところ、90%が原因不明です。ただし、糖尿病網膜症・網膜動脈閉塞症などの眼底出血から緑内障になることもあります。これを続発緑内障といいます。

緑内障の頻度は

緑内障は、40歳以上の20人に1人が罹患しているとわれ、高齢化社会に伴って増加傾向にあり、日本人

の中途失明者の第1位となっています。近年日本人の60〜70%が正常眼圧緑内障であることが分かり、眼圧検査だけでは緑内障の発見が遅れることがあります。正常眼圧緑内障はほとんどが高齢者ですが、若くても近視眼の方は近視のない方に比べて若干多い傾向にあります。先天緑内障は非常にまれで、出生児の1万人に1人の割合です。

緑内障の症状は

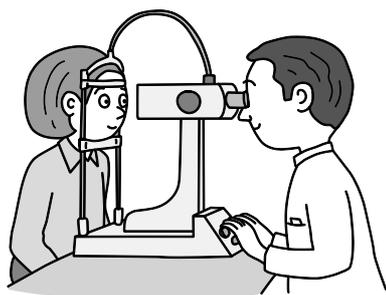
正常眼圧緑内障の初期は自覚症状がなく、進行して視野狭窄・視力低下を自覚したときは手遅れですので、早期発見・早期治療が必要です。また、原発閉塞隅角緑内障は急性緑内障発作（眼痛、充血、吐き気）で発症して失明する恐れがあります。したがって、40歳以上で眼科受診歴のない方は一度眼科受診をおすすめします。

緑内障の検査は

緑内障の主な検査は眼圧検査、眼底検査そして視野検査です。当院では病期別に3種類の視野検査機器で進行度を評価しています。日本人に正常眼圧緑内障が多いことから眼圧の高い低いにかかわらず、半年に1度は視野検査を受けることをお勧めします。

緑内障の治療は

基本的には点眼治療を中心とした薬物治療です。眼圧が高い原発開放隅角緑内障の場合は、点眼で眼圧が下がらなければ飲み薬を追加し、それでも下がらなければやむをえず緑内障手術をすすめています。原発閉塞隅角緑内障の場合はレーザー治療で緑内障発作を予防します。緑内障発作をおこした場合は入院治療が必要なこともあります。



最後に
お願いがあります

糖尿病網膜症、網膜剥離術後、飛蚊症などの眼底疾患の患者さんには眼底検査目的で散瞳（瞳孔を広げる）することがあります。その際には車を運転してこないようお願いしています。

山間部で車以外の交通機関がない地域の方には大変申し訳ありませんが、交通事故防止のために身内の方に乗せてきていただくなど、工夫してください。どうしても運転しないという方は、散瞳検査後4時間以上経過した後に運転して帰宅するようにお願いします。